

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号

特開2022-187084

(P2022-187084A)

(43)公開日 令和4年12月19日(2022.12.19)

(51)国際特許分類

B 6 5 D 5/72 (2006.01)

F I

B 6 5 D 5/72

E

テーマコード(参考)

3 E 0 6 0

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全15頁)

(21)出願番号 特願2021-94897(P2021-94897)

(22)出願日 令和3年6月7日(2021.6.7)

(71)出願人 000205306

大阪シーリング印刷株式会社

大阪府大阪市天王寺区小橋町1番8号

(74)代理人 100154014

弁理士 正木 裕士

(74)代理人 100154520

弁理士 三上 祐子

(72)発明者 村中 成仁

大阪府大阪市天王寺区小橋町1番8号

大阪シーリング印刷株式会社内

Fターム(参考) 3E060 AA03 AB05 BA04 BA23

BB01 CF10 DA17 DA30

EA13 EA14

(54)【発明の名称】 包装箱

(57)【要約】

【課題】傾斜角度を任意に変更することができる包装箱を提供する。

【解決手段】前壁面20に開口窓20Bが設けられると共に、所定の内容物Nを収納可能な包装箱本体2と、

開口窓20Bを開放閉止可能な開閉部材3と、を有し、

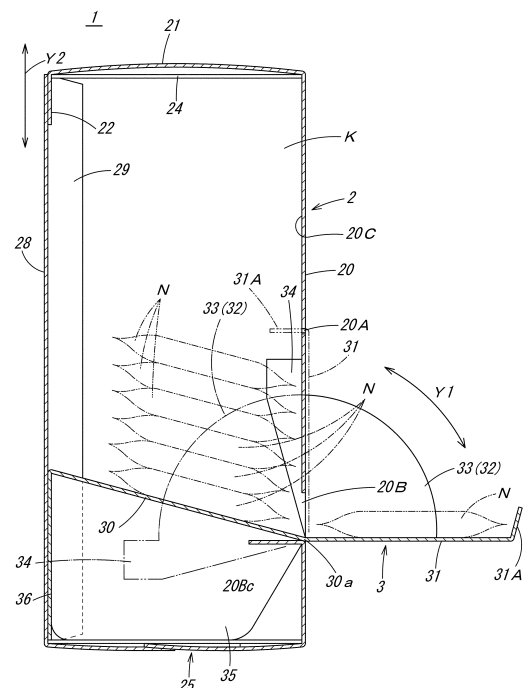
包装箱本体2と、開閉部材3とは、別体として設けられ、

開閉部材3は、

包装箱本体2内に設けられると共に、開口窓20B側に向かって下り状に傾斜する傾斜部30と、

包装箱本体2外に設けられると共に、開口窓20Bを開放閉止できるように、傾斜部30に対して傾動可能に一体的に設けられる開閉部31と、を有してなる。

【選択図】図3



10

20

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

一側面に開口窓が設けられると共に、所定の内容物を収納可能な包装箱本体と、
前記開口窓を開放閉止可能な開閉部材と、を有し、
前記包装箱本体と、前記開閉部材とは、別体として設けられ、
前記開閉部材は、
前記包装箱本体内に設けられると共に、前記開口窓側に向かって下り状に傾斜する傾斜部と、
前記包装箱本体外に設けられると共に、前記開口窓を開放閉止できるように、前記傾斜部に対して傾動可能に一体的に設けられる開閉部と、を有してなる包装箱。

10

【請求項 2】

前記開口窓には、上部側に突起部が設けられてなる請求項 1 に記載の包装箱。

【請求項 3】

前記包装箱本体の一側面には、係止孔が設けられ、
前記開閉部には、前記係止孔に係止可能な係止片が設けられてなる請求項 1 又は 2 に記載の包装箱。

【請求項 4】

前記開閉部の両側面には、該開閉部の傾動動作に伴い、前記開口窓内を通して、前記包装箱本体内に挿抜可能な一对の壁部が設けられており、
前記一对の壁部には、夫々、前記開閉部が前記開口窓を開放する方向に傾動した際、前記包装箱本体の一側面の内面に当接する当接片が設けられてなる請求項 1 ~ 3 の何れか 1 項に記載の包装箱。

20

【請求項 5】

前記包装箱本体の一側面の両側面には、夫々、前記開口窓と連通する切欠き部が設けられ、
前記切欠き部には、前記一对の壁部が夫々挿入されてなる請求項 4 に記載の包装箱。

【請求項 6】

前記傾斜部の幅は、前記開閉部の幅よりも幅狭に形成されてなる請求項 1 ~ 5 の何れか 1 項に記載の包装箱。

【請求項 7】

前記開閉部の下部側には、支持片が設けられ、
前記包装箱本体には、前記支持片と対向する位置に、該支持片に係止可能な支持孔が設けられてなる請求項 1 ~ 6 の何れか 1 項に記載の包装箱。

30

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、包装箱に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来の包装箱として、例えば、特許文献 1 に記載のものが知られている。特許文献 1 に記載の包装箱は、下面に下面開口部を有し、内部に内容物を収容する周壁と、下面開口部を塞ぐように周壁の後方の下端部から前方に向かって延びて周壁の前方の下端部に接触または近接した状態に設けられ、下方に撓むことで周壁の前方の下端部との間に内容物を取り出すための隙間を形成する底壁と、を備えているというものである。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2018 - 193067 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】**

50

【 0 0 0 4 】

しかしながら、上記のような包装箱は、底壁の傾斜角度を任意に変更することができないという問題があった。

【 0 0 0 5 】

そこで、本発明は、上記問題に鑑み、傾斜角度を任意に変更することができる包装箱を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

上記本発明の目的は、以下の手段によって達成される。なお、括弧内は、後述する実施形態の参照符号を付したものであるが、本発明はこれに限定されるものではない。

【 0 0 0 7 】

請求項 1 の包装箱によれば、一側面（前壁面 2 0 ）に開口窓（ 2 0 B ）が設けられると共に、所定の内容物（ N ）を収納可能な包装箱本体（ 2 , 2 A , 2 B ）と、

前記開口窓（ 2 0 B ）を開放閉止可能な開閉部材（ 3 , 3 A , 3 B ）と、を有し、

前記包装箱本体（ 2 , 2 A , 2 B ）と、前記開閉部材（ 3 , 3 A , 3 B ）とは、別体として設けられ、

前記開閉部材（ 3 , 3 A , 3 B ）は、

前記包装箱本体（ 2 , 2 A , 2 B ）内に設けられると共に、前記開口窓（ 2 0 B ）側に向かって下り状に傾斜する傾斜部（ 3 0 ）と、

前記包装箱本体（ 2 , 2 A , 2 B ）外に設けられると共に、前記開口窓（ 2 0 B ）を開放閉止できるように、前記傾斜部（ 3 0 ）に対して傾動可能に一体的に設けられる開閉部（ 3 1 ）と、を有してなることを特徴としている。

【 0 0 0 8 】

請求項 2 の発明によれば、上記請求項 1 に記載の包装箱（ 1 , 1 A , 1 B ）において、前記開口窓（ 2 0 B ）には、上部側に突起部（ 2 0 B a ）が設けられてなることを特徴としている。

【 0 0 0 9 】

請求項 3 の発明によれば、上記請求項 1 又は 2 に記載の包装箱（ 1 , 1 A , 1 B ）において、前記包装箱本体（ 2 , 2 A , 2 B ）の一側面（前壁面 2 0 ）には、係止孔（ 2 0 A ）が設けられ、

前記開閉部（ 3 1 ）には、前記係止孔（ 2 0 A , 2 0 A A ）に係止可能な係止片（ 3 1 A , 3 1 A A ）が設けられてなることを特徴としている。

【 0 0 1 0 】

請求項 4 の発明によれば、上記請求項 1 ~ 3 の何れか 1 項に記載の包装箱（ 1 , 1 A , 1 B ）において、前記開閉部（ 3 1 ）の両側面（左側面 3 1 a , 右側面 3 1 b ）には、該開閉部（ 3 1 ）の傾動動作に伴い、前記開口窓（ 2 0 B ）内を通して、前記包装箱本体（ 2 , 2 A , 2 B ）内に挿抜可能な一对の壁部（左壁部 3 2 , 右壁部 3 3 ）が設けられており、

前記一对の壁部（左壁部 3 2 , 右壁部 3 3 ）には、夫々、前記開閉部（ 3 1 ）が前記開口窓（ 2 0 B ）を開放する方向に傾動した際、前記包装箱本体（ 2 , 2 A , 2 B ）の一側面（前壁面 2 0 ）の内面（ 2 0 C ）に当接する当接片（ 3 4 ）が設けられてなることを特徴としている。

【 0 0 1 1 】

請求項 5 の発明によれば、上記請求項 4 に記載の包装箱（ 1 , 1 A , 1 B ）において、前記包装箱本体（ 2 , 2 A , 2 B ）の一側面（前壁面 2 0 ）の両側面には、夫々、前記開口窓（ 2 0 B ）と連通する切欠き部（ 2 0 B 1 ）が設けられ、

前記切欠き部（ 2 0 B 1 ）には、前記一对の壁部（左壁部 3 2 , 右壁部 3 3 ）が夫々挿入されてなることを特徴としている。

【 0 0 1 2 】

請求項 6 の発明によれば、上記請求項 1 ~ 5 の何れか 1 項に記載の包装箱（ 1 , 1 A ,

10

20

30

40

50

１Ｂ）において、前記傾斜部（３０）の幅（横幅Ｗ２）は、前記開閉部（３１）の幅（横幅Ｗ１）よりも幅狭に形成されてなることを特徴としている。

【００１３】

請求項７の発明によれば、上記請求項１～６の何れか１項に記載の包装箱（１Ｂ）において、前記開閉部（３１）の下部側には、支持片（３０Ｂ）が設けられ、

前記包装箱本体（２Ｂ）には、前記支持片（３０Ｂ）と対向する位置に、該支持片（３０Ｂ）に係止可能な支持孔（２０ＢｃＢ）が設けられてなることを特徴としている。

【発明の効果】

【００１４】

次に、本発明の効果について、図面の参照符号を付して説明する。なお、括弧内は、後述する実施形態の参照符号を付したものであるが、本発明はこれに限定されるものではない。

【００１５】

請求項１の発明によれば、包装箱本体（２，２Ａ，２Ｂ）と、開閉部材（３，３Ａ，３Ｂ）とは、別体として設けられているから、開閉部材（３，３Ａ，３Ｂ）の傾斜部（３０）の傾斜角度だけを自由に変更することが可能となる。それゆえ、本発明によれば、傾斜角度を任意に変更することができる包装箱を提供することができる。

【００１６】

請求項２の発明によれば、開口窓（２０Ｂ）には、上部側に突起部（２０Ｂａ）が設けられているから、複数の所定の内容物（Ｎ）が開口窓（２０Ｂ）より外側に飛び出してしまいう事態を防止することができる。

【００１７】

請求項３の発明によれば、開閉部（３１）に設けられている係止片（３１Ａ，３１ＡＡ）に係止孔（２０Ａ，２０ＡＡ）に係止するようにすれば、開閉部（３１）によって開口窓（２０Ｂ）を閉止している状態を維持することができる。これにより、開口窓（２０Ｂ）より所定の内容物（Ｎ）が誤って外に飛び出してしまう事態を低減させることができる。

【００１８】

請求項４の発明によれば、一对の壁部（左壁部３２，右壁部３３）には、夫々、開閉部（３１）が開口窓（２０Ｂ）を開放する方向に傾動した際、包装箱本体（２，２Ａ，２Ｂ）の一側面（前壁面２０）の内面（２０Ｃ）に当接する当接片（３４）が設けられている。これにより、当接片（３４）を一对の壁部（左壁部３２，右壁部３３）の自由な位置に設けるようにすれば、包装箱本体（２，２Ａ，２Ｂ）の一側面（前壁面２０）に対して所望する角度位置で開閉部（３１）を停止させることができる。

【００１９】

請求項５の発明によれば、切欠き部（２０Ｂ１）には、一对の壁部（左壁部３２，右壁部３３）が夫々挿入されているから、一对の壁部（左壁部３２，右壁部３３）は、切欠き部（２０Ｂ１）内を通して、包装箱本体（２，２Ａ，２Ｂ）内に挿抜されることとなる。これにより、一对の壁部（左壁部３２，右壁部３３）は、開口窓（２０Ｂ）の形状に左右されることなく、スムーズに包装箱本体（２，２Ａ，２Ｂ）内に挿抜されることとなる。

【００２０】

請求項６の発明によれば、傾斜部（３０）の幅（横幅Ｗ２）は、開閉部（３１）の幅（横幅Ｗ１）よりも幅狭に形成されている。これにより、傾斜部（３０）が邪魔をして開閉部（３１）が包装箱本体（２，２Ａ，２Ｂ）の開口窓（２０Ｂ）より外部に露出し難くならないようにすることができる。

【００２１】

請求項７の発明によれば、包装箱本体（２Ｂ）に設けられている支持孔（２０ＢｃＢ）は、支持片（３０Ｂ）と対向する位置に設けられ、そして、その支持孔（２０ＢｃＢ）には、支持片（３０Ｂ）に係止できるようになっている。そしてさらに、その支持片（３０Ｂ）は、開閉部（３１）の下部側に設けられている。これにより、開閉部（３１）を傾動

させたとしても、包装箱本体（２Ｂ）と、開閉部材（３Ｂ）とのズレが生じ難くなり、もって、安定性が向上することとなる。

【図面の簡単な説明】

【００２２】

【図１】本発明の一実施形態に係る包装箱を示す斜視図である。

【図２】同実施形態に係る包装箱の開口窓が開放された状態を示す斜視図である。

【図３】図２に示すＸ－Ｘ線断面図である。

【図４】（ａ）は同実施形態に係る包装箱本体の展開図、（ｂ）は同実施形態に係る開閉部材の展開図である。

【図５】図４（ａ）に示す状態から包装箱本体を組み立てている状態の過程を示す斜視図である。 10

【図６】図５に示す包装箱本体内に、図４（ｂ）に示す状態から組み立てた開閉部材を挿入しようとしている状態を示す斜視図である。

【図７】図６に示す包装箱本体内に図６に示す開閉部材を挿入した状態を示す斜視図である。

【図８】図７に示す状態から包装箱本体を組み立てている状態の過程を示す斜視図である。

【図９】図８に示す状態から包装箱本体を組み立てている状態の過程を示す斜視図である。

【図１０】本発明の他の実施形態に係る包装箱を示す斜視図である。 20

【図１１】他の実施形態に係る包装箱の開口窓が開放された状態を示す斜視図である。

【図１２】（ａ）は本発明の他の実施形態に係る包装箱を示す正面図、（ｂ）は（ａ）に示すＸ部分の拡大図である。

【図１３】（ａ）は他の実施形態に係る包装箱本体の展開図、（ｂ）は他の実施形態に係る開閉部材の展開図である。

【発明を実施するための形態】

【００２３】

以下、本発明の一実施形態を、図面を参照して具体的に説明する。なお、以下の説明において、上下左右の方向を示す場合は、図示正面から見た場合の上下左右をいうものとする。 30

【００２４】

< 包装箱の説明 >

図１～図３に示すように、本実施形態に係る包装箱１は、所定の内容物Ｎを収納することができる包装箱本体２と、包装箱本体２と別体で設けられる開閉部材３と、で構成されている。以下、各構成について詳しく説明することとする。

【００２５】

< 包装箱本体の説明 >

包装箱本体２は、図３に示すように、内部に空洞Ｋが形成された断面視略矩形状に形成されており、この空洞Ｋ内に複数の内容物Ｎ（図示では、６個）を上下に積み重ねて収納できるようになっている。そして、図２に示すように、包装箱本体２の前壁面２０には、下壁面２５側に略矩形状の開口窓２０Ｂが包装箱本体２の内外に貫通して設けられている。 40

【００２６】

ところで、このように形成される包装箱本体２は、図４（ａ）に示すように、厚紙等で形成された一枚のシートＳ１を用いて形成されるものである。この点、詳しく説明すると、図４（ａ）に示すように、１枚のシートＳ１は、縦長矩形状の前壁面２０を有している。この前壁面２０の中央部分には、略Ｔ字状の係止孔２０Ａが形成されており、下面側には、左側面から右側面に向かって略矩形状に貫通されている開口窓２０Ｂが形成されている。そして、この開口窓２０Ｂの上部側には、前壁面２０の下面側に向かって（開口窓２０Ｂ側に向かって）半円状の突起部２０Ｂａが前壁面２０と一体となるように形成されて 50

いる。そしてさらに、この開口窓 20 B の下面には、折り曲げ線 20 B b が形成されており、この折り曲げ線 20 B b を基点として、前壁面 20 の上面側に向かって（開口窓 20 B 側に向かって）、台形状のフラップ 20 B c が前壁面 20 と一体となるように形成されている。またさらに、開口窓 20 B の上面には、左右側面に、それぞれ、前壁面 20 の上面側に向かって（開口窓 20 B から離れる方向に向かって）僅かな切欠き部 20 B 1 が形成されている。なお、この一对の切欠き部 20 B 1 は、開口窓 20 B と連通している。

【0027】

かくして、このように形成される前壁面 20 の外周面には、図 4 (a) に示すように、折り曲げ線 20 a ~ 20 d が形成されている。そして、この前壁面 20 の上面には、折り曲げ線 20 a を基点として、前壁面 20 と同程度の横幅からなる矩形状の上壁面 21 が前壁面 20 に連なって設けられている。この上壁面 21 の上面には、折り曲げ線 21 a が形成されており、この折り曲げ線 21 a を基点として、上壁面 21 と同程度の横幅からなる矩形状の外フラップ 22 が上壁面 21 に連なって設けられている。なお、上壁面 21 の上面には左右側面に折り曲げ線 21 a と連通するように一对のスリット 21 b が僅かに形成されている。

10

【0028】

一方、図 4 (a) に示すように、前壁面 20 の右側面には、折り曲げ線 20 b を基点として、前壁面 20 と同程度の縦幅からなる矩形状の右壁面 23 が前壁面 20 に連なって設けられている。この右壁面 23 の上面には折り曲げ線 23 a が形成されており、この折り曲げ線 23 a を基点として、右壁面 23 と同程度の横幅からなる矩形状の右内フラップ 24 が右壁面 23 に連なって設けられている。なお、右内フラップ 24 には、折り曲げ線 23 a 側に右突片 24 a が一体的に設けられている。

20

【0029】

一方、図 4 (a) に示すように、右壁面 23 の下面には折り曲げ線 23 b が形成されており、この折り曲げ線 23 b を基点として、右壁面 23 と同程度の横幅からなる略台形状の第 1 下壁面 25 a が右壁面 23 に連なって設けられている。

【0030】

他方、図 4 (a) に示すように、前壁面 20 の下面には、折り曲げ線 20 c を基点として、前壁面 20 と同程度の横幅からなる略台形状の第 2 下壁面 25 b が前壁面 20 に連なって設けられている。

30

【0031】

一方、図 4 (a) に示すように、前壁面 20 の左側面には、折り曲げ線 20 d を基点として、前壁面 20 と同程度の縦幅からなる矩形状の左壁面 26 が前壁面 20 に連なって設けられている。この左壁面 26 の上面には折り曲げ線 26 a が形成されており、この折り曲げ線 26 a を基点として、左壁面 26 と同程度の横幅からなる矩形状の左内フラップ 27 が左壁面 26 に連なって設けられている。なお、左内フラップ 27 には、折り曲げ線 26 a 側に左突片 27 a が一体的に設けられている。

【0032】

一方、図 4 (a) に示すように、左壁面 26 の下面には折り曲げ線 26 b が形成されており、この折り曲げ線 26 b を基点として、左壁面 26 と同程度の横幅からなる略台形状の第 3 下壁面 25 c が左壁面 26 に連なって設けられている。そしてさらに、左壁面 26 の左側面には折り曲げ線 26 c が形成されており、この折り曲げ線 26 c を基点として、左壁面 26 と同程度の縦幅からなる矩形状の後壁面 28 が左壁面 26 に連なって設けられている。この後壁面 28 の下面には折り曲げ線 28 a が形成されており、この折り曲げ線 28 a を基点として、後壁面 28 と同程度の横幅からなる凹状の第 4 下壁面 25 d が後壁面 28 に連なって設けられている。そして、後壁面 28 の左側面には折り曲げ線 28 b が形成されており、この折り曲げ線 28 b を基点として、後壁面 28 と同程度の縦幅からなる縦長矩形状の糊代 29 が後壁面 28 に連なって設けられている。

40

【0033】

なお、図 1 ~ 図 3 に示す下壁面 25 は、第 1 下壁面 25 a と、第 2 下壁面 25 b と、第

50

３下壁面２５ｃと、第４下壁面２５ｄと、で構成されることとなる。

【００３４】

< 開閉部材の説明 >

開閉部材３は、図３に示すように、包装箱本体２内に設けられ、開口窓２０Ｂ側に向かって下り状に傾斜する傾斜部３０を有している。この傾斜部３０は、図３に示すように、傾斜部３０の下端部３０Ａが開口窓２０Ｂの下面に位置するように、包装箱本体２の後壁面２８から前壁面２０に向かって下り傾斜している。そして、この傾斜部３０には、図３に示すように、包装箱本体２の空洞Ｋ内に収納された複数の内容物Ｎ（図示では、６個）が上下に積み重ねられることとなる。そしてさらに、この傾斜部３０には、下端部３０Ａに連なるように、断面視Ｌ字状の開閉部３１が一体的に設けられている。この開閉部３１は、図２に示すように、略半円弧状に形成されており、図３に示すように、開口窓２０Ｂを開放閉止できるように、矢印Ｙ１方向に傾動可能に形成されている。なお、図３では、開閉部３１の破線部分に位置する状態が開口窓２０Ｂを閉止している状態、実線部分に位置する状態が開口窓２０Ｂを開放している状態を示している。

10

【００３５】

一方、図２に示すように、開閉部３１の左側面３１ａには、扇形状の左壁部３２が一体的に立設されており、開閉部３１の右側面３１ｂには、扇形状の右壁部３３が一体的に立設されている。この左壁部３２及び右壁部３３は、図３に示すように、開閉部３１が矢印Ｙ１方向に傾動した際、開口窓２０Ｂ内を通して、包装箱本体２内に挿抜可能に設けられている。すなわち、図３に示す右壁部３３（左壁部３２）の実線部分に位置する状態が包装箱本体２内より拔出された状態で、右壁部３３（左壁部３２）の破線部分に位置する状態が包装箱本体２内に挿入された状態である。そしてさらに、左壁部３２及び右壁部３３は、図２に示すように、切欠き部２０Ｂ１内に挿入されている。これにより、左壁部３２及び右壁部３３は、切欠き部２０Ｂ１内を通して、包装箱本体２内に挿抜されることとなるから、開口窓２０Ｂの形状に左右されることなく、スムーズに包装箱本体２内に挿抜されることとなる。

20

【００３６】

ところで、図３に示すように、右壁部３３（左壁部３２）の円弧面には、外方向に向かって矩形の当接片３４が一体的に突出して設けられている。これにより、開口窓２０Ｂを開放する方向に開閉部３１が傾動し、それに合わせて、左壁部３２及び右壁部３３が包装箱本体２内より拔出すると、図３に示すように、当接片３４が、包装箱本体２の前壁面２０の内面２０Ｃに当接することとなる。しかるに、この当接片３４が、包装箱本体２の前壁面２０の内面２０Ｃに当接することによって、開閉部３１及び左壁部３２並びに右壁部３３の移動が規制されることとなる。それゆえ、図３に示すように、開閉部３１は、包装箱本体２の前壁面２０に対して９０度の位置までしか移動できないこととなる。しかして、右壁部３３（左壁部３２）の円弧面の自由な位置に当接片３４を設けるようにすれば、包装箱本体２の前壁面２０に対して所望する角度位置で開閉部３１を停止させることができる。

30

【００３７】

一方、図２に示すように、開閉部３１の円弧面中央部には、半円状の係止片３１Ａが外方向に向かって一体的に突出して設けられている。この係止片３１Ａは、図１及び図３に示すように、包装箱本体２の係止孔２０Ａ内に挿入できるようになっている。これにより、図１に示すように、開閉部３１によって開口窓２０Ｂを閉止している状態（図３参照）を維持することができる。それゆえ、開口窓２０Ｂより内容物Ｎが誤って外に飛び出してしまう事態を低減させることができる。

40

【００３８】

ところで、このように形成される開閉部材３は、図４（ｂ）に示すように、厚紙等で形成された一枚のシートＳ２を用いて形成されるものである。この点、詳しく説明すると、図４（ｂ）に示すように、１枚のシートＳ２は、矩形の傾斜部３０を有している。この傾斜部３０の外周面には、図４（ｂ）に示すように、折り曲げ線３０ａ～３０ｄが形成さ

50

れている。そして、この傾斜部 30 の上面には、折り曲げ線 30 a を基点として、傾斜部 30 と同程度の横幅からなる略半円弧状の開閉部 31 が傾斜部 30 に連なって設けられている。この傾斜部 30 の円弧面中央部分には、折り曲げ線 31 A a が形成されており、この折り曲げ線 31 A a を基点として、半円状の係止片 31 A が外方向に向かって一体的に突出して設けられている。さらに、傾斜部 30 の左側面 31 a には折り曲げ線が形成されており、この折り曲げ線を基点として、傾斜部 30 と同程度の縦幅からなる扇形状の左壁部 32 が傾斜部 30 に連なって設けられている。そしてさらに、傾斜部 30 の右側面 31 b には折り曲げ線が形成されており、この折り曲げ線を基点として、傾斜部 30 と同程度の縦幅からなる扇形状の右壁部 33 が傾斜部 30 に連なって設けられている。なお、左壁部 32 及び右壁部 33 の円弧面には、それぞれ、外方向に向かって矩形状の当接片 34 が一体的に突出して設けられている。 10

【0039】

一方、図 4 (b) に示すように、傾斜部 30 の右側面には、折り曲げ線 30 b を基点として、傾斜部 30 と同程度の縦幅からなる傾斜部 30 を支持する台形状の第 1 支持部 35 が傾斜部 30 に連なって設けられている。そして、傾斜部 30 の下面には、折り曲げ線 30 c を基点として、傾斜部 30 と同程度の横幅からなる傾斜部 30 を支持する矩形状の第 2 支持部 36 が傾斜部 30 に連なって設けられている。そしてさらに、傾斜部 30 の左側面には、折り曲げ線 30 d を基点として、傾斜部 30 と同程度の縦幅からなる傾斜部 30 を支持する台形状の第 3 支持部 37 が傾斜部 30 に連なって設けられている。 20

【0040】

< 包装箱の組み立て方法の説明 >

かくして、上記のように構成される包装箱 1 は、以下のように組み立てられる。

【0041】

まず、図 4 (a) に示す折り曲げ線 20 d を基点として、左壁面 26 及び後壁面 28 並びに糊代 29 を外側に折り曲げ、すなわち、山折りする。さらに、折り曲げ線 26 c を基点として、後壁面 28 及び糊代 29 を外側に折り曲げ、折り曲げ線 28 b を基点として、糊代 29 を内側に折り曲げ、すなわち、谷折りする。

【0042】

次いで、図 4 (a) に示す折り曲げ線 20 b を基点として、右壁面 23 を外側に折り曲げ、すなわち、山折りし、その右壁面 23 に糊代 29 を貼り付けるようにすれば、包装箱本体 2 は、図 5 に示すような状態となる。これにより、図 3 に示すように、包装箱本体 2 内に空洞 K が形成されることとなる。 30

【0043】

次いで、図 4 (b) に示す折り曲げ線 30 a を基点として、傾斜部 30 及び第 2 支持部 36 を外側に折り曲げ、すなわち、山折りする。そして、折り曲げ線 30 c を基点として、第 2 支持部 36 を内側に折り曲げ、すなわち、谷折りする。さらに、折り曲げ線 30 b を基点として、第 1 支持部 35 を内側に折り曲げ、折り曲げ線 30 d を基点として、第 3 支持部 37 を内側に折り曲げる。そしてさらに、開閉部 31 の左側面 31 a に形成されている折り曲げ線を基点として、左壁部 32 を外側に折り曲げ、開閉部 31 の右側面 31 b に形成されている折り曲げ線を基点として、右壁部 33 を外側に折り曲げる。これにより、開閉部材 3 は、図 6 に示すような状態となる。 40

【0044】

次いで、図 6 に示すように、開閉部材 3 は、包装箱本体 2 の下壁面 25 より包装箱本体 2 内に挿入される。これにより、図 7 に示すように、開閉部材 3 は、開閉部 31 が、包装箱本体 2 の開口窓 20 B より外部に露出した状態で、包装箱本体 2 内に挿入されることとなる。なお、この際、図 6 に示すフラップ 20 B c は、折り曲げ線 20 B b を基点として開口窓 20 B 内に折り曲げられている。

【0045】

ところで、図 4 (b) に示すように、傾斜部 30 の横幅 W2 は、開閉部 31 の横幅 W1 よりも幅狭、すなわち、 $W1 > W2$ となるように形成されている。これは、傾斜部 30 の 50

横幅 W 2 と開閉部 3 1 の横幅 W 1 とを同程度にしてしまうと、傾斜部 3 0 が包装箱本体 2 の内壁面に密着し、開閉部 3 1 が開口窓 2 0 B より外部に露出し難くなるためである。それゆえ、傾斜部 3 0 が邪魔をして開閉部 3 1 が包装箱本体 2 の開口窓 2 0 B より外部に露出し難くならないように、傾斜部 3 0 の横幅 W 2 は、開閉部 3 1 の横幅 W 1 よりも幅狭になるように形成されている。

【 0 0 4 6 】

次いで、図 7 に示すように、包装箱本体 2 外に露出している開閉部材 3 の傾斜部 3 0、第 1 支持部 3 5、第 2 支持部 3 6、及び、第 3 支持部 3 7 を、包装箱本体 2 内に没入するように、包装箱本体 2 内に押し込む。そして、図 7 に示す折り曲げ線 2 6 b を基点として、第 3 下壁面 2 5 c を内側に折り曲げ、すなわち、谷折りし、さらに、図 4 に示す折り曲げ線 2 3 b を基点として、第 1 下壁面 2 5 a を内側に折り曲げる。そしてさらに、図 6 に示す折り曲げ線 2 8 c を基点として、第 4 下壁面 2 5 d を内側に折り曲げ、図 7 に示す折り曲げ線 2 0 c を基点として、第 2 下壁面 2 5 b を内側に折り曲げる。これにより、図 8 に示すように、いわゆる地獄底（「アメリカンロック」とも称される）の構造となった下壁面 2 5 が形成されることとなる。

【 0 0 4 7 】

次いで、図 8 に示す折り曲げ線 2 6 a を基点として左内フラップ 2 7 を内側に折り曲げ、すなわち、谷折りし、図 4 に示す折り曲げ線 2 3 a を基点として右内フラップ 2 4 を内側に折り曲げる。これにより、図 9 に示すような状態となる。なお、左内フラップ 2 7 及び右内フラップ 2 4 を内側に折り曲げる前は、包装箱本体 2 の上方が開放されている。それゆえ、この開放された上方から、図 3 に示す空洞 K 内に複数の内容物 N、或いは、単数の内容物 N が投入されることとなる。そしてその後、左内フラップ 2 7 及び右内フラップ 2 4 が内側に折り曲げられることとなる。

【 0 0 4 8 】

次いで、図 9 に示す折り曲げ線 2 1 a を基点として、外フラップ 2 2 を外側に折り曲げ、すなわち、山折りし、その外フラップ 2 2 を、包装箱本体 2 内に隠蔽するように、折り曲げ線 2 0 a を基点として上壁面 2 1 を内側に折り曲げる。これにより、図 1 に示すような状態となり、包装箱本体 2 の上方が閉止されることとなる。なお、この際、図 9 に示す一対のスリット 2 1 b 内に、左内フラップ 2 7 の左突片 2 7 a、及び、右内フラップ 2 4 の右突片 2 4 a がそれぞれ挿入されることとなる。これにより、包装箱本体 2 内に外フラップ 2 2 がしっかりと固定配置されることとなるから、包装箱本体 2 の上方を上壁面 2 1 にてしっかりと閉止することができる。

【 0 0 4 9 】

また、開口窓 2 0 B を閉止する方向に開閉部 3 1 を傾動させ、係止片 3 1 A を包装箱本体 2 の係止孔 2 0 A 内に挿入するようにすれば、図 1 に示すように、開閉部 3 1 によって、開口窓 2 0 B を閉止できることとなる。

【 0 0 5 0 】

かくして、上記のように組み立てられた包装箱 1 を使用するにあたっては、開口窓 2 0 B を開放する方向に開閉部 3 1 を傾動させ、図 2 に示す状態とする。そして、包装箱 1 を図 3 に示す矢印 Y 2 方向に上下動させれば、傾斜部 3 0 に接している内容物 N（図 3 に示す最下端の内容物 N）、すなわち、単数の内容物 N が開口窓 2 0 B より外側に飛び出し、開閉部 3 1 の上面に移動することとなる。これにより、包装箱本体 2 内に収納された内容物 N を取り出すことが可能となる。なお、この際、複数の内容物 N が開口窓 2 0 B より外側に飛び出さないように、図 2 及び図 3 に示すように、突起部 2 0 B a が設けられている。すなわち、この突起部 2 0 B a によって、例えば、2 個の内容物 N が開口窓 2 0 B より外側に飛び出そうとしても、2 個の内容物 N のうち包装箱本体 2 の上方側に位置する 1 個の内容物 N が突起部 2 0 B a によって外側への飛び出しを阻害されることとなる。それゆえ、単数の内容物 N が開口窓 2 0 B より外側に飛び出すこととなる。これにより、突起部 2 0 B a によって、複数の内容物 N が開口窓 2 0 B より外側に飛び出してしまう事態を防止することができる。

10

20

30

40

50

【 0 0 5 1 】

しかして、以上説明した本実施形態によれば、包装箱本体 2 と、開閉部材 3 とは、別体として設けられているから、開閉部材 3 の傾斜部 3 0 の傾斜角度だけを自由に変更することが可能となる。それゆえ、本実施形態によれば、傾斜角度を任意に変更することができる包装箱 1 を提供することができる。

【 0 0 5 2 】

なお、本実施形態において示した形状等はあくまで一例であり、特許請求の範囲に記載された本発明の要旨の範囲内において、種々の変形・変更が可能である。例えば、本実施形態においては、突起部 2 0 B a の形状を半円状にする例を示したが、それに限らず、矩形状でも良いし、三角形状でも良く、どのような形状でも良い。また、単数の突起部 2 0 B a でなくとも、適当間隔をあけて、複数の突起部 2 0 B a を形成するようにしても良い。

10

【 0 0 5 3 】

また、本実施形態において示した係止孔 2 0 A、及び、係止片 3 1 A の形状はあくまで一例であり、どのような形状でも良い。例えば、図 1 0 及び図 1 1 に示す包装箱 1 A のようにすることもできる。以下、この点詳しく説明する。なお、上記説明した包装箱 1 と同一の構成については、同一の符号を付し説明は省略することとする。

【 0 0 5 4 】

図 1 0 及び図 1 1 に示す包装箱 1 A の包装箱本体 2 A は、図 1 1 に示すように、前壁面 2 0 の中央部分に、凹状のスリットが形成されており、この凹状のスリットによって、係止孔 2 0 A A が形成されている。

20

【 0 0 5 5 】

一方、図 1 1 に示すように、包装箱 1 A の開閉部材 3 A は、開閉部 3 1 の円弧面中央部に、係止片 3 1 A A が外方向に向かって一体的に突出して設けられている。この係止片 3 1 A A は、半円状の係止片本体 3 1 A A a と、係止片本体 3 1 A A a の中央部分開閉部 3 1 寄りに形成されている舌状の挿入片 3 1 A A b と、で構成されている。

【 0 0 5 6 】

かくして、このように構成される係止孔 2 0 A A に、係止片 3 1 A A を係止するにあたっては、開口窓 2 0 B を閉止する方向に開閉部 3 1 を傾動させる。そして、係止片本体 3 1 A A a をつまんで、挿入片 3 1 A A b を係止孔 2 0 A A 内に挿入するようにする。これにより、図 1 0 に示すように、係止孔 2 0 A A に、係止片 3 1 A A を係止することができる。しかして、このような係止孔 2 0 A A 及び係止片 3 1 A A であっても、開口窓 2 0 B を開閉部 3 1 にて閉止することができる。

30

【 0 0 5 7 】

他方、図 1 2 及び図 1 3 に示す包装箱 1 B のようにすることもできる。以下、この点詳しく説明する。なお、上記説明した包装箱 1 及び包装箱 1 A と同一の構成については、同一の符号を付し説明は省略することとする。

【 0 0 5 8 】

図 1 2 (b) に示すように、この包装箱 1 B は、開閉部材 3 B の開閉部 3 1 の下部側に舌状の支持片 3 0 B が設けられている。そしてさらに、図 1 2 (a) (特に、図 1 2 (b)) に示すように、包装箱本体 2 B の前壁面 2 0 の下壁面 2 5 側には、支持片 3 0 B に対向する位置に、その支持片 3 0 B を係止可能な支持孔 2 0 B c B が設けられている。これにより、開閉部 3 1 を傾動させたとしても、包装箱本体 2 B と、開閉部材 3 B とのズレが生じ難くなり、もって、安定性が向上することとなる。

40

【 0 0 5 9 】

さらに詳しく、支持片 3 0 B、支持孔 2 0 B c B が設けられる位置を、図 1 3 を用いて説明する。図 1 3 (b) に示す 1 枚のシート S 2 B に示すように、傾斜部 3 0 と連通している開閉部 3 1 の基点となる折り曲げ線 3 0 a の中央部分に矩形状のスリットが設けられている。これにより、支持片 3 0 B は、舌状に形成されることとなり、さらに、開閉部材 3 B の開閉部 3 1 の下部側に設けられることとなる。

50

【 0 0 6 0 】

一方、図 1 3 (a) に示す 1 枚のシート S 1 B に示すように、台形状のフラップ 2 0 B c の下面に位置する折り曲げ線 2 0 B b の中央部分に矩形状の孔 (支持片 3 0 B の形状に対応した孔) が包装箱本体 2 の内外に貫通して設けられている。これにより、支持孔 2 0 B c B は、包装箱本体 2 B の前壁面 2 0 の下壁面 2 5 側で、支持片 3 0 B に対向する位置に設けられることとなる。

【 0 0 6 1 】

しかして、このように支持片 3 0 B、支持孔 2 0 B c B が設けられることにより、図 1 2 (b) に示すように、支持孔 2 0 B c B 内に支持片 3 0 B を係止できることとなる。これにより、開閉部 3 1 を傾動させたとしても、包装箱本体 2 B と、開閉部材 3 B とのズレが生じ難くなり、安定性が向上することとなる。

10

【 0 0 6 2 】

一方、本実施形態においては、開口窓 2 0 B を、包装箱本体 2 の前壁面 2 0 に設ける例を示したが、これに限らず、右壁面 2 3、左壁面 2 6、後壁面 2 8 の何れに設けても良い。

【 0 0 6 3 】

また、本実施形態において示した内容物 N としては、お菓子、文房具など、どのようなものにも適用可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 6 4 】

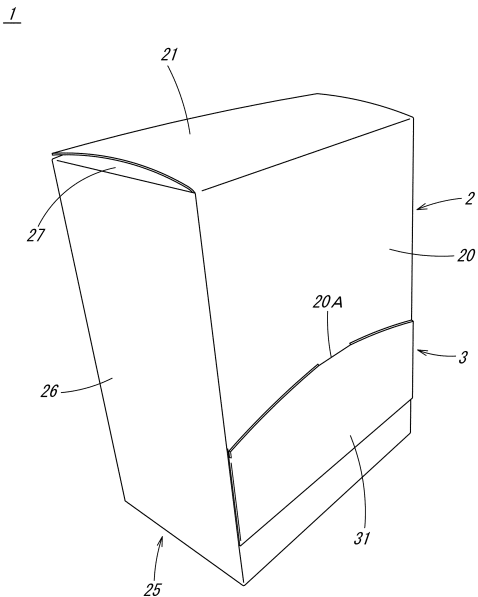
20

1, 1 A, 1 B 包装箱
 2, 2 A, 2 B 包装箱本体
 2 0 前壁面 (一側面)
 2 0 A, 2 0 A A 係止孔
 2 0 B 開口窓
 2 0 B a 突起部
 2 0 C 内面
 2 0 B c B 支持孔
 3, 3 A, 3 B 開閉部材
 3 0 傾斜部
 3 0 B 支持片
 3 1 開閉部
 3 1 A, 3 1 A A 係止片
 3 1 a 左側面
 3 1 b 右側面
 3 2 左壁部 (壁部)
 3 3 右壁部 (壁部)
 3 4 当接片
 N 内容物
 W 1 横幅 (幅)
 W 2 横幅 (幅)

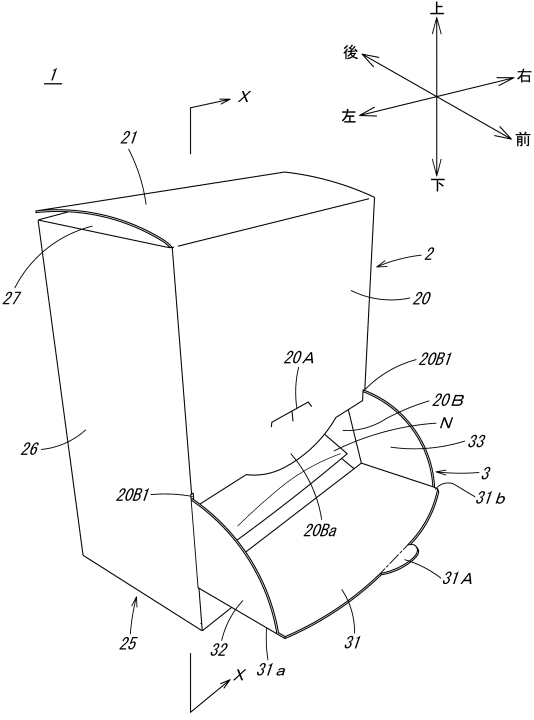
30

40

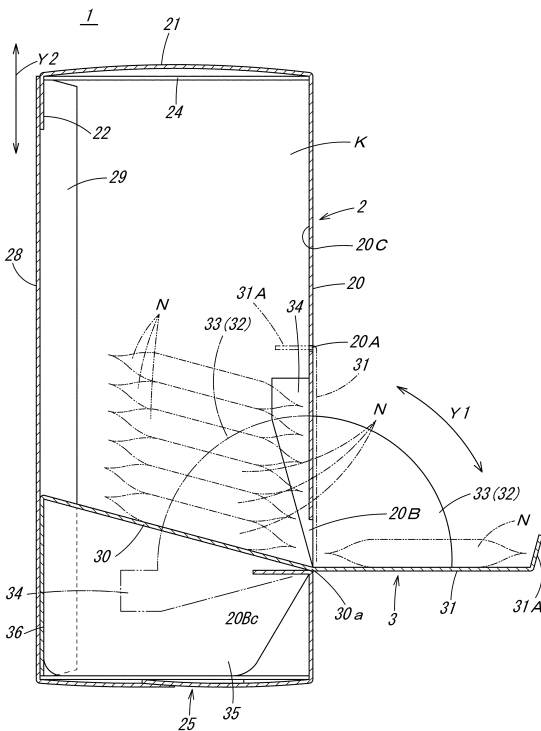
【 図面 】
【 図 1 】



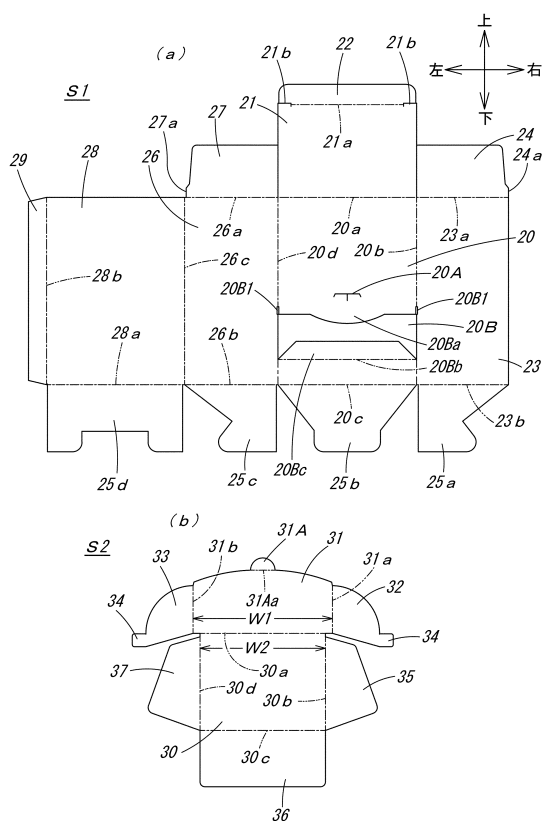
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



10

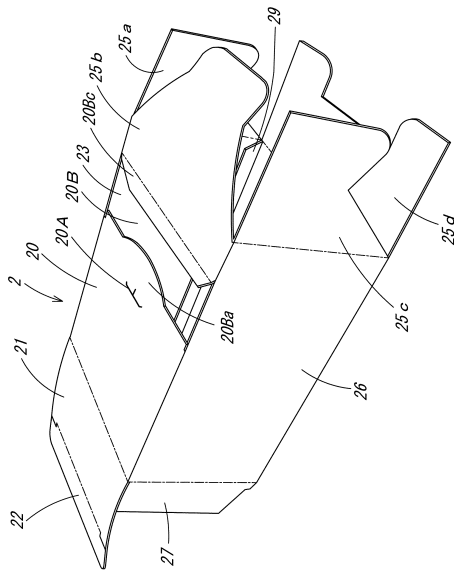
20

30

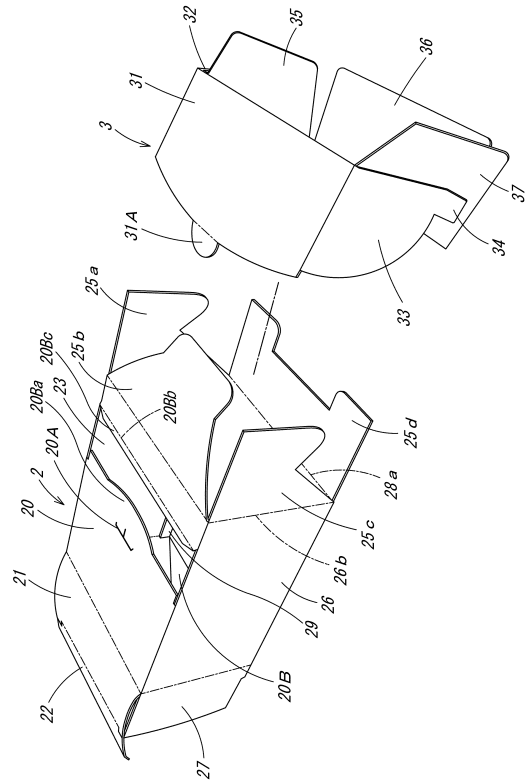
40

50

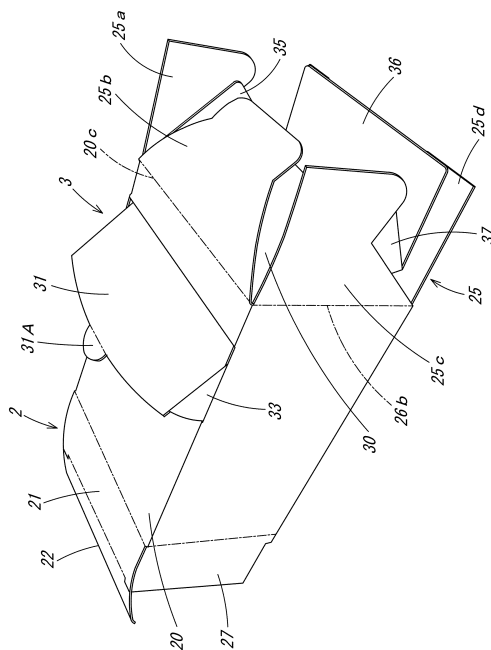
【 図 5 】



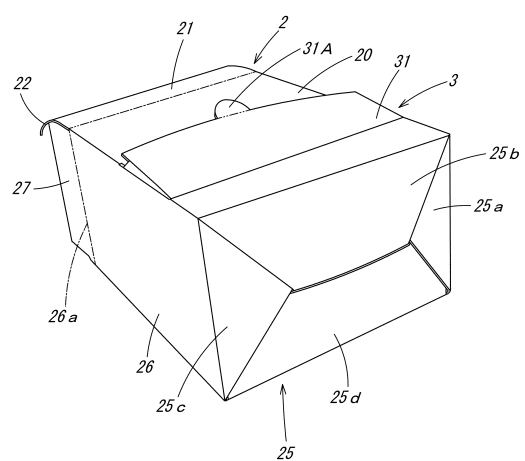
【圖 6】



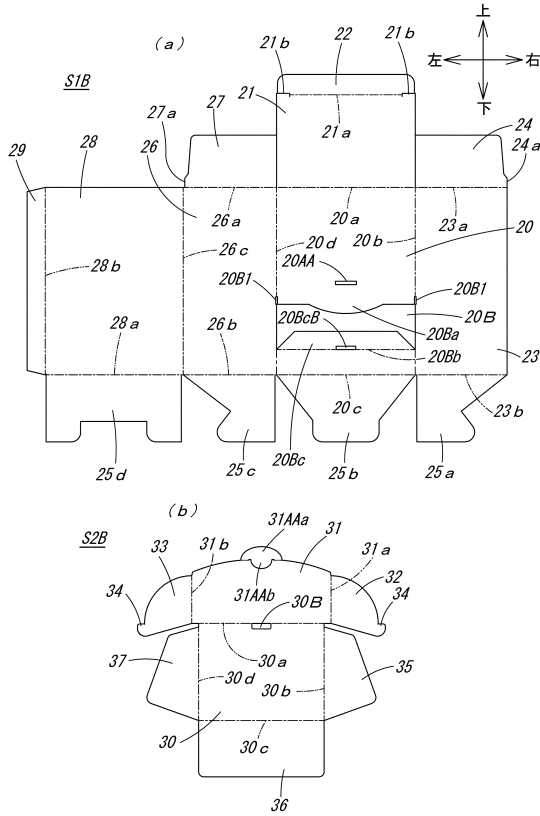
【 図 7 】



【 図 8 】



【図 13】



10

20

30

40

50